

区民参加による開かれた区政へ

対話の力で誰もが暮らしやすい街を



大きく発展した 中野駅周辺

「中野区もずいぶん変わったけれど、商店街の活気は昔と変わらないなあ」

二三男くんは、中野駅に降り立ちました。北口の商店街にはアーケードができていましたが、多くの人たちで賑わう光景は70年前と変わりありません。背後には住宅街が広がり、商店街は街のエネルギー源となっています。

現在では中野サンプラザや中野区役所などが建ち、駅前近代的な街並みに変わりました。その区役所などもこれから再開発で建て替えられる予定です。

「中野区がこれからどう変化して

いくのか調べてみよう」

二三男くんはさっそく目の前の中野区役所へと向かいました。

75歳以上の人口が 増え続ける

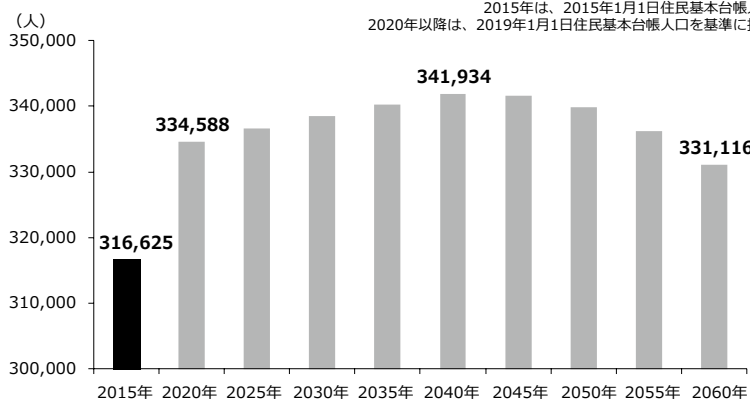
中野区役所を訪れた二三男くんはまず、中野区の人口について調べてみました。

中野区の人口は1970年代をピークに減少していましたが、2000年頃を境に増加に転じています。

老年人口（65歳以上）は一貫して増加し続け、5万人を超えています。一方で、年少人口は低い水準のままです。国の年齢別人口に比べると、20代、30代の割合が突出して多いですが、0歳から19歳までと60代以上

中野区の人口は2015年に31.7万人だったが、2020年には33.5万人まで増加すると推計される。2040年代まで人口は増え続けるが、その後は減少に転じ、2060年には33.1万人となると推計されている。

2015年は、2015年1月1日住民基本台帳人口
2020年以降は、2019年1月1日住民基本台帳人口を基準に推計



将来人口推計（長期推計）

の割合が少なくなっています。

中野区の合計特殊出生率は増加傾向にあります。国や東京都と比べて低く、2017年の出生数は2602人、合計特殊出生率は1.04となっています。

将来人口推計を見ると、中野区の人口は2015年に31・7万人でしたが、2020年には33・5万人まで増加すると推計されています。2040年代までは人口は増え続けますが、その後は減少に転じ、2060年には33・1万人となると推計されています。

将来人口は、生産年齢人口が減少し、老年人口は増加すると推計されています。75歳以上の人口が概ね一貫して増え続け、2060年には約5・9万人となると見込まれています。



す。

二二男くんは、中野区がこれからどんなまちの姿を目指していくのか、基本構想の改定と基本計画の策定に関する資料を閲覧し、読み始めました。

基本構想の改定

中野区では、2016年3月に区の基本的な指針となる基本構想と整合性を図り、『中野区まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定しました。その後、2018年6月に酒井直人区長が就任し、「区民参加の区政の推進」を掲げました。その上で、まずは子育て世代に選ばれる中野区を目指し、そして高齢者・障害のある方など全ての区民を対象とした地域包括ケアシステムを着実に構築していくと表明しました。

酒井区長がまず着手したのは、基本構想の改定です。

中野区の基本構想は、10年後に目指すべき中野のまちの姿を描くものです。

区は1981年に「ともにつくる人間のまち中野」を基本理念とした「中野区基本構想」を策定しました。

2005年には社会環境の変化等を理由として、区民ワークシヨップや職員プロジェクトチームを設置し、基本理念を「生かされる個性 発揮される力」とする基本構想への改定を行いました。しかし、その後の2回の改定に当たっては、区民ワークシヨップ等を行うことなく改定しています。

この間、少子高齢化の進展、ICの急速な進歩、大規模災害の発生、東京オリンピック・パラリンピックの開催決定など、社会状況は加速度的に変化を遂げており、それに合わせて区民のニーズや価値観もさらに多様化しています。こうした中で、区はより広範な区民の声を反映するプロセスを経て、基本構想を再構築することにしました。

新しい基本構想は、区民と区が共有する中野区の姿を描くものとして、より区民が親しみや共感を持つことができ、分かりやすく伝わる内容や構成に改定する考えです。構想で描くまちの姿は、2020年度から概ね10年後に目指すべき将来像とします。

また、基本構想の改定に合わせて、

基本構想が描くまちの姿を実現するための総合計画として、基本計画を策定します。計画期間は2020年度から2024年度までの5年間とします。

今回の基本構想の改定と基本計画の策定は、より幅広い区民が検討に参加することにより、区民の意見や生活実態を反映したものとします。そのため、検討の各段階に



2019年4月に設置された中野区基本構想審議会

において検討状況の積極的な情報公開を行うことにより、区民の関心を高めるとともに、その中で得られた意見や議論の内容を反映していきます。

また、所属や立場にとらわれず、幅広い職員の意見や知見を集約・反映するとともに、区民と職員が一緒に検討する機会を設けることにより、検討を深めていきます。そして、社会状況の分析や将来推計等の論拠を精査し、施策の効果や実現可能性について十分に検証した上で、実現性のある計画としてまとめます。

中野区は2019年4月に中野区基本構想審議会を設置。公募による区民12人を含めた39人で構成しています。審議会は2019年10月に答申をまとめる予定です。

区民と職員のワークシヨップ

基本構想に関する区民ワークシヨップは今年6月に2回、開催されました。参加したのは、無作為に抽出した区民です。無作為抽出で参加者を選出することにより、より一般的な区民感覚に近い意見を聞くこと



2019年6月に開催された
基本構想に関する
区民ワークショップ

ができます。また、参加者に地域への関心を深めてもらうことができ、地域の活性化につながるという効果も期待できます。

2日間を通して、非常にスムーズにお互いを尊重した対等な対話が行われました。特に2日目は、自由に率直に意見が出されていて、対話の質が高まっていたように見えました。話をしながら模造紙に書くために自然と立ち上がる、意見をまとめるためにグループのメンバー間で協力するという姿がよく見られました。区民の対話の場を作ることが、区政・地域づくり全体への効果的な取り組みであるという気づきを得ることができました。

参加者に、これまでの中野区政に関する意見交換会や説明会等への参加状況を聞いたところ、約9割の人が初めて参加したと、従来の希望制の意見交換会には参加しなかった人にも新たに区政に参加してもらうきっかけとなりました。また、ワークショップの満足度は、平均86・1%という高い満足度が得られました。自由意見では「こういう機会でなければ出会えない人と話し合

いできた」「様々な世代の区民の方、職員の方の意見をお聞きすることができ、有意義だった」などと好意的な意見が上がりました。

「子育て先進区」の実現

区は、「子育て先進区」の実現を区政運営の柱として掲げ、中野のまちが「子育てしてよかったまち」「育ってよかったまち」「子育てしたいまち」となることを目指しています。中野区でも、生産年齢人口の減少、老年人口の増加が推計されているため、出生率の向上、子育て家庭の転入・定着などにより活力あふれるまちを実現していく必要があります。

区が目指す「子育て先進区」には、2つの視点があります。1つ目は、子育てをする上で必要な環境が整っており、子育て家庭の満足度が高くなっている、という区内からの視点です。2つ目は、区の子育て環境が区内外に認知されて、多くの子育て家庭から選ばれる、という区外からの視点です。これらの視点に立って、区内の子育て環境の整備について全庁的な検討を行い、取り組みを推進



しています。

効果的な取り組みを推進するため、今年度、保護者と子どもを対象とした「子どもと子育て家庭の実態調査」を実施し、区の子育て環境の満足度や強み・弱みを把握します。また、「子育て家庭と区長のタウンミーティング（愛称…子育てカフェ）」、インターネットによる意見募集や、子育て団体へのヒアリングを実施し、子育てに関わる様々な方々の意見を聞いています。今後は、これらの調査、意見募集等から得られた情報を基に、子育て先進区の実現に向けた戦略を取りまとめしていきます。

高齢化社会にも対応

子育て世帯だけでなく、高齢者にとっても安心して暮らし続けられる取り組みを進めています。

区は昨年度、ICTを活用した在宅医療介護連携システム「なかのメデイ・ケアネット」を導入しました。これは、病院、診療所、介護事業者、行政などがご自宅で療養される方のお身体の状態や支援経過などの必要な情報をパソコンやタブレットを用



高齢者会館では利用証をカード化し、見守りなどに生かす実証実験を実施

いて共有し、より質の高いサービスを提供しようとするものです。11月からの本格稼働を目指し、現在、関係者によるテスト運用を実施しています。

このほか、「高齢者会館入退館管理事業の実証実験」を実施します。一部の高齢者会館等の利用証（紙）をカード（バーコード）化し、利用

目的や頻度などのデータを収集・分析することで、施策展開に生かしていきます。また、利用者の家族に対して、希望により高齢者会館等の利用をメールで通知することによって、見守り等に生かします。今年度は実証実験を行い、来年度に本格的なシステムを導入する予定です。

全ての区民対象の地域包括ケアシステム

区はさらに、2017年度に策定した「中野区地域包括ケアシステム推進プラン」を見直し、子育て世帯や障害者などを始めとする支援を必要とする全ての人に対象を拡大した地域包括ケアシステムを構築していく考えも示しています。

地域包括ケアシステムにおいては、サービスの「支える側」と「受け手側」に分かれるのではなく、地域住民がそれぞれの役割を持ち、支えたり、支えられたりしながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを活性化し、公的な福祉サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる「地域共生社会」を実現していく必要があります。

中野区の特性を踏まえた地域包括ケアシステムの構築によって、中野のまち全体で取り組む、誰もが快適に暮らすことができる地域づくりの実現を進めていく考えです。

二三男くんは「新しい基本構想や基本計画を行政が区民と一緒につくっていくという姿勢に好感が持てる。『子育て先進区』の実現や、地域包括ケアシステムの推進で、誰もが暮らしやすい中野区にしていきたい」と素晴らしいことだ。対話の力を生かして区民が主役となる区政運営を目指しているところが中野区らしい」と感心しました。

区役所でたくさん勉強した二三男くんはお腹がすいてきたので、「腹ごしらえしよう」と買い物客でにぎわっている北口商店街へと小走りに向かいました。

